

ホルムズ海峡封鎖に伴う中東情勢の現況②

日本人船員全員がペルシャ湾外へ退避（24 人→0 人）

ホルムズ海峡が封鎖された当初、日本人 24 人を含む日本関係船舶 59 隻がペルシャ湾内に閉じ込められる事態となったため、本組合は直ちに日本船主協会外航労務部会に対し協議会（安全）の開催申し入れを行い、当該海域への関係船舶の就航見合わせ、また、ペルシャ湾内へ滞留している船舶の情報共有体制を確認した。その後も、情勢の変化に伴い、湾内における安全確保や、本人同意を前提としたペルシャ湾から退避するためホルムズ海峡を通峡する場合の乗組員の扱い、ペルシャ湾内での滞留を余儀なくされている船舶の乗組員交代を実施する際の前提条件などについて確認してきた。

ペルシャ湾就航船舶の取り扱い

3 月 2 日、日本船主協会外航労務部会との協議会（安全）において、ペルシャ湾周辺海域の情勢が極めて緊迫しており、当該海域への入域は現実的ではないため、当面の間、関係船舶の就航を見合わせる事、また、ペルシャ湾内にいる船舶の情報を随時共有することを確認した。現在も湾内への就航は認めていない。

「海員だより」